

# 第5回 ゆめスクールプラン 南部地区推進委員会

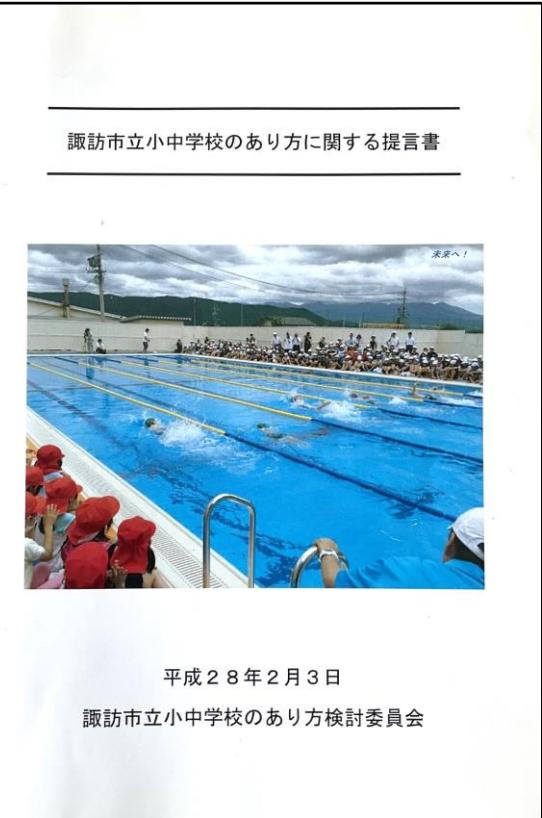


令和6年5月14日  
諏訪市教育委員会

# 「ゆめスクールプラン」策定の経過

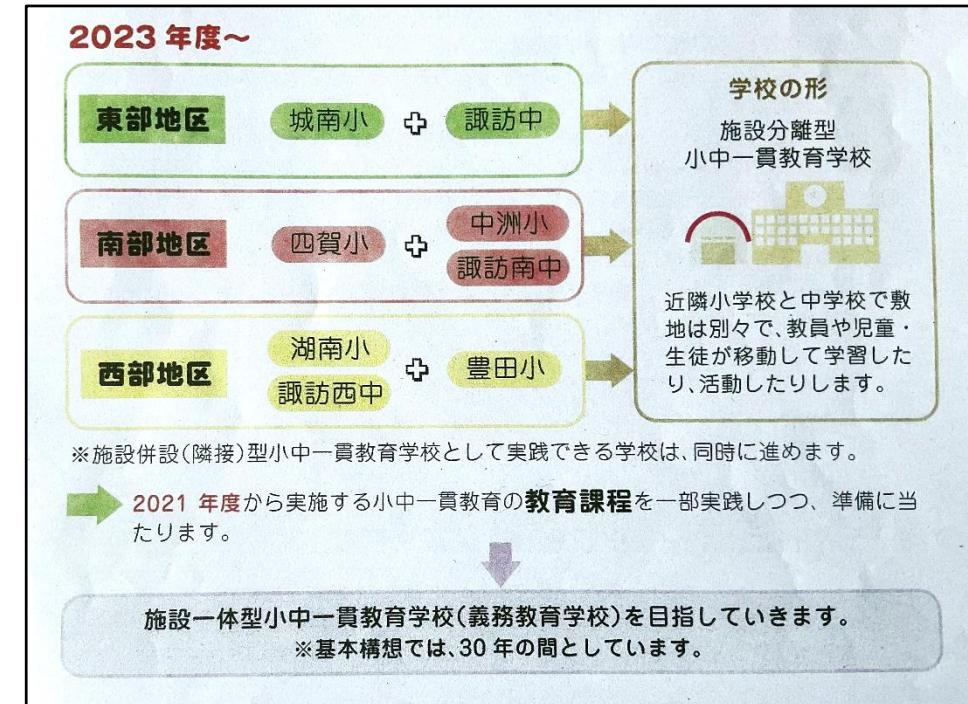
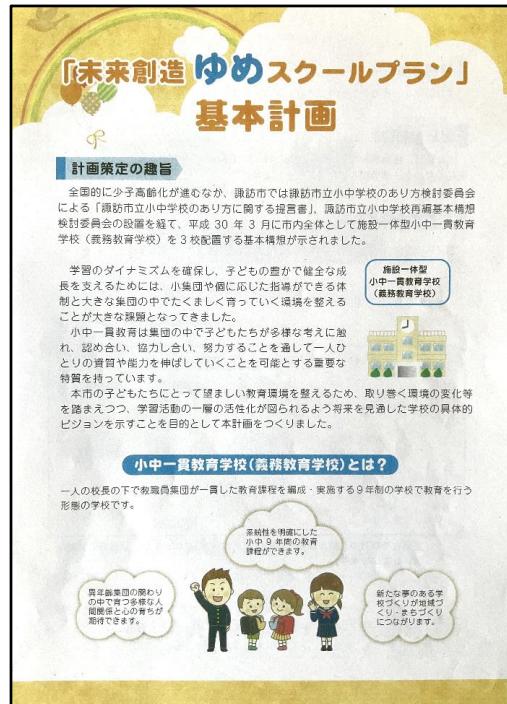
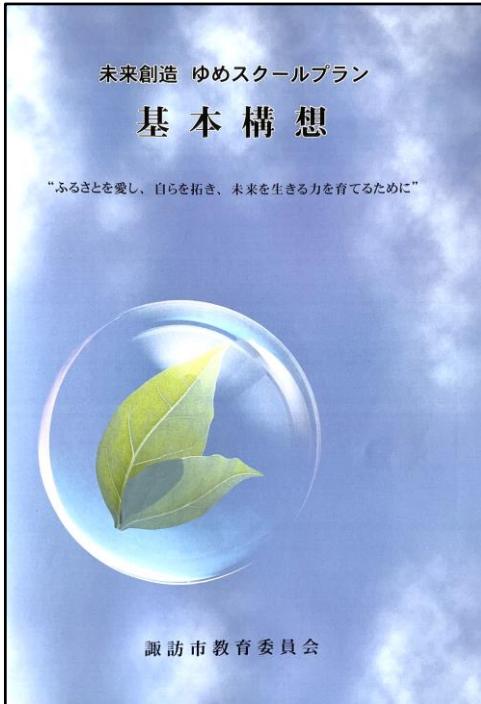
平成26年2月 諏訪市立小中学校のあり方  
検討委員会 発足

平成28年2月 提言書を教育委員会に提出



# 平成28年11月 基本構想検討委員会 発足

# 平成30年3月 未来創造ゆめスクールプラン基本構想 決定





# 令和3年度 上諏訪小学校開校 諏訪市の中学校と小学校の統合教育が目指す方向性を策定 上諏訪小・中学校を一貫教育校として開始

**未来創造ゆめスクールプラン**

**「自らを拓き、未来を生きる」子どもを育てる**

**諏訪市の中学校と小学校の統合教育(施設併設・分離型)が全ての中学校区で始まります!**

**施設併設型**

- 上諏訪中学校区(東部地区第1期)
  - 上諏訪小
  - 上諏訪中
  - 教育目標: 「自らを拓き、未来を生きる」
- 諏訪南中学校区(南部地区)
  - 南小
  - 中
  - 諏訪南中
  - 教育目標: 「自分と友だちを大切にし、夢に向かってあゆむ」

**施設分離型**

- 諏訪中学校区(東部地区第2期)
  - 対馬小
  - 対馬中
  - 教育目標: 「自ら学び、認め合い、未来を創る」
- 諏訪西中学校区(西部地区)
  - 真田小
  - 羽根小
  - 諏訪西中
  - 教育目標: 「社会の中で、私もみんなも『幸せ』になれる」

小中一貫教育校は、小学校と中学校が共通する「9年間の一貫した教育目標」を決め、学習や交流等「9年間の学び方の連続性や教育内容の系統性、体系的に配慮した指導の工夫」をして、いわゆる「9年キャップ(小中の段差)」の緩和をしながら、児童生徒の成長を支える教育です。また、これらの実現可能な時代に適応できるように、児童生徒一人ひとりの「社会的自立」を目標とした取り組みを行なっています。

諏訪市では、令和3年度より各中学校区で小中一貫教育を実施し、可能な部分から一貫教育を積極的に実施していきます。

**1 高学年(5~6年生)の複数教科で、教科担任制を取り入れます。**  
・専門性に特化した質の高い授業を行うことにより、学力や学習意欲の向上が期待できます。  
・一人ひとりの子どもに、複数の教員が様々な視点から見わり、課題を共有して、相手による子どもの理解へどうつなげます。

**2 教科内容等のつまみ書きを、ジョイントカリキュラムで解消します。**  
・中学校の学習でつまみ書きがたり、定めた区分などこれまで以上に大きく範囲を広げたりする学習内容については、学年間に亘りて学習内容の取り上げ方や順序、教材等を整備し、学習つながりを大切にした授業をします。

**3 「伝え合う力」を育む授業をします。**  
・なぜ?」「どうして?」という経験(課題)をもち、その解決に向け情報を集め、協力して課題を解決する授業を工夫します。  
・自分の学びや意見を自分で分り合った工夫した表現で伝えるをよう、授業を展開します。

**4 児童生徒のアイディアを積極的に取り入れながら異年齢交流を推進します。**  
・学習、行動、読み聞かせ、運動会、音楽会、文化祭、アフタースクール、カラオケィティブ活動などの企画、運営、参加を、児童生徒の意見・アイディアを生かしながら進めます。また、小中のミユーティックスクールの連携を更に進めます。

**5 児童生徒一人ひとりの「教育的ニーズに応じた特別支援教育を進めます。**  
・児童の個性と保護者が、「限り不可能の教員から求められた教科課題に応じた教育のカリキュラム」を共有し、子ども自身の学びをより深めます。

① 施設併設型の中学校と小学校の統合教育校、開設していない良いむ地元の教育機関などに配置している小・中学校において、教育目標及び教育課程に一貫性を持ち、互いに連携を図るなどから、教育活動を連携する学校。(学校教育基本法第17条の規定)

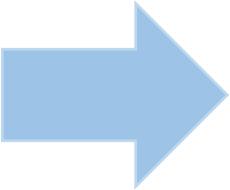
② 伝え合う力: 相手や自分の意見を、他人を正確に理解しあう力

# 令和5年度から、中学校区をベースとして小中一貫教育を開始

# これまでの学校 と これからの中学校

すべての人が、健康で、豊かな人生を送るために  
「そろえる」教育から、「伸ばす」教育へ

子どもたちが多様化する中で  
紙ベースの一斉授業は限界



多様な子どもたちに対してICTも活用し、  
「個別最適な学び」と「協働的な学び」  
を一体的に充実

教師による一斉授業

主体

子ども主体の学び

同一学年で

学校種・学年

学年に関係なく

同じ教室で

空間

教室以外の選択肢

教科ごと

教科

教科等横断・探究

## 「学びの改革」の主な内容

- 1 小学校高学年で拡充する「教科担任制」
- 2 小中学校の学びをつなげる「ジョイントカリキュラム」
- 3 探究の学びを通して育む「伝え合う力」
- 4 児童生徒主体の「異年齢交流」
- 5 一人一人が自分らしく学べる「特別支援教育」

# 子どもや地域起点の「ゆめスクールプラン」

児童会・生徒会が  
いっしょに「あいさつ運動」



コミュニティ・スクールも連携して  
育てたい子ども像、学校像など語り合う



## 小中一貫教育を進める背景

小学校の先生は、子どもたちが中学校を卒業する時の姿をイメージできているだろうか？

中学校の先生は、小学校のとき、子どもたちが、どの学習の部分でつまずいたかを知っているだろうか？

小中のギャップ(いじめ、不登校、暴力行為の増加、環境の変化や勉強が難しくなることへのストレス)への対応が必要ではないか？

# 基本となる計算力

中学1年の最初の単元「正の数・負の数」で見えるつまずき

## 計算力

たとえば

- ・約分ができない、しない
- ・通分ができない、あいまい
- ・かけ算が不確か
- ・九九があいまい
- ・小数が出てくると計算できない など

## 学び方

- ・自分の「分からない」ところが分からない
- ・「分からない」を「分かる」にする学び方が必要

(小学校5年)

$$\frac{1}{3} + \frac{1}{6} = \frac{2}{6} + \frac{1}{6} = \frac{3}{6}$$

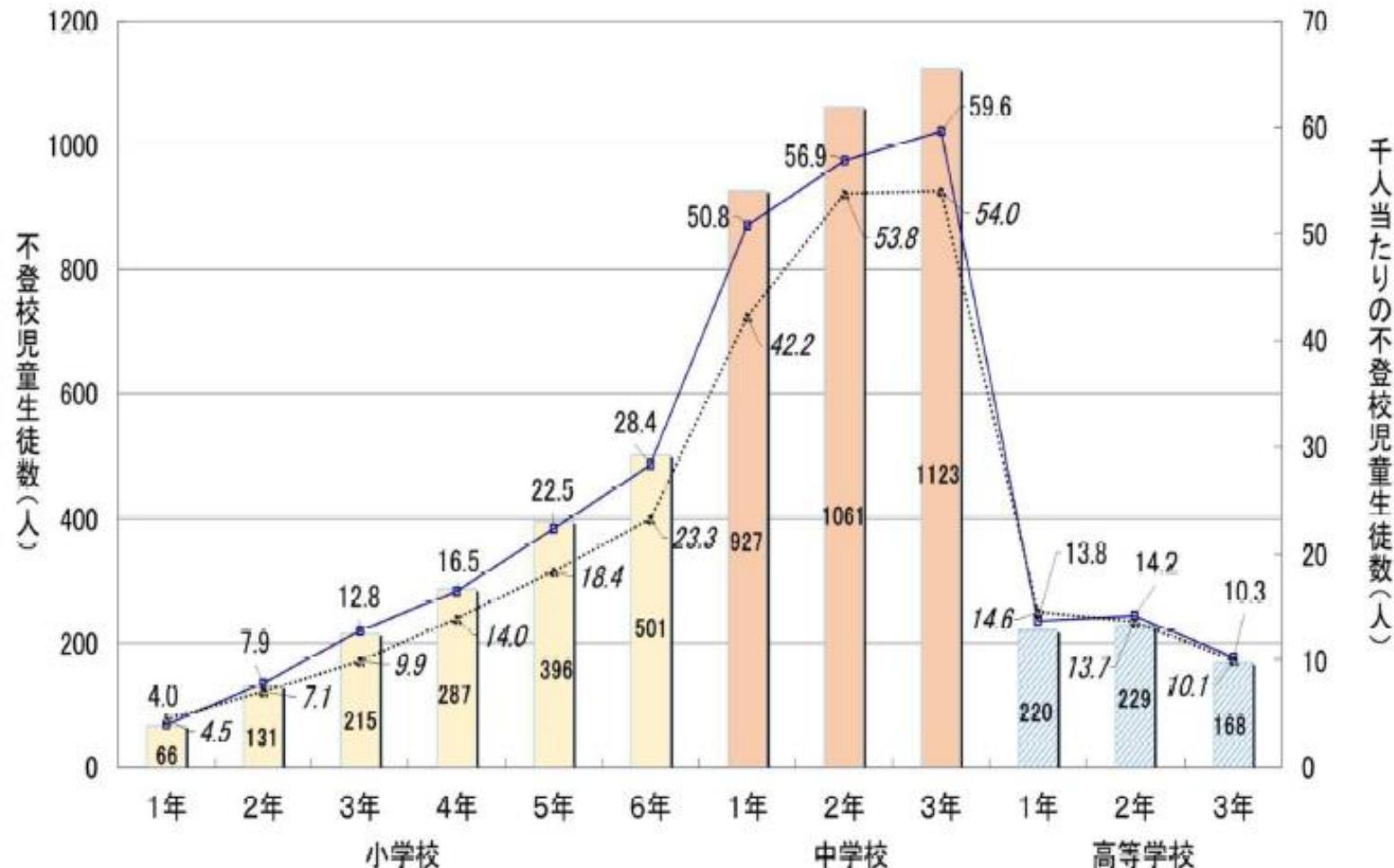
(中学校でも)

$$\frac{1}{6} - \frac{2}{3} = \frac{1}{6} - \frac{4}{6} = -\frac{3}{6}$$

$$\frac{1}{4}a + \frac{1}{6}a = \frac{6}{24}a + \frac{4}{24}a = \frac{10}{24}a$$

# 不登校児童生徒の推移

■ 不登校児童生徒数 ▲ 千人当たり不登校児童生徒数 長野県 ……千人当たり不登校児童生徒数 全国



注1) 調査対象：県内国公私立小中高等学校 672校 高等学校の4年生、単位制の人数は除く

# 小中一貫教育のねらい

義務教育9年間を連続した教育課程としてとら

え、児童生徒・学校・地域の実情等を踏まえた

具体的な取組内容の質を高めること

# 小中一貫教育の導入の歴史

- 2000年 広島県呉市(3小1中を統合)国の研究開発校
- 2003年 構造改革特区研究開発学校制度が創設
- 2004年 東京都品川区            2006年 東京都三鷹市
- 2008年 教育課程特例校制度が創設  
その後、全国の自治体で取り組み、成果を蓄積
- 2016年 改正学校教育法の施行により制度化

# 小中一貫教育で期待される効果

- ・「中1ギャップ」の緩和  
不登校、いじめ、暴力行為等の減少
- ・児童生徒に思いやりや助け合いの気持ちが育まれる
- ・中学校への進学に不安を覚える児童が減る
- ・上級生が下級生の手本となろうとする意識が高まる
- ・下級生に上級生に対する憧れの気持ちが強まる
- ・自己肯定感、自己効力感が向上する
- ・学習意欲の向上、授業の理解度の向上、学習習慣の定着が図れる
- ・小中学校の教職員間で互いのよさを取り入れ、協力意識が高まる

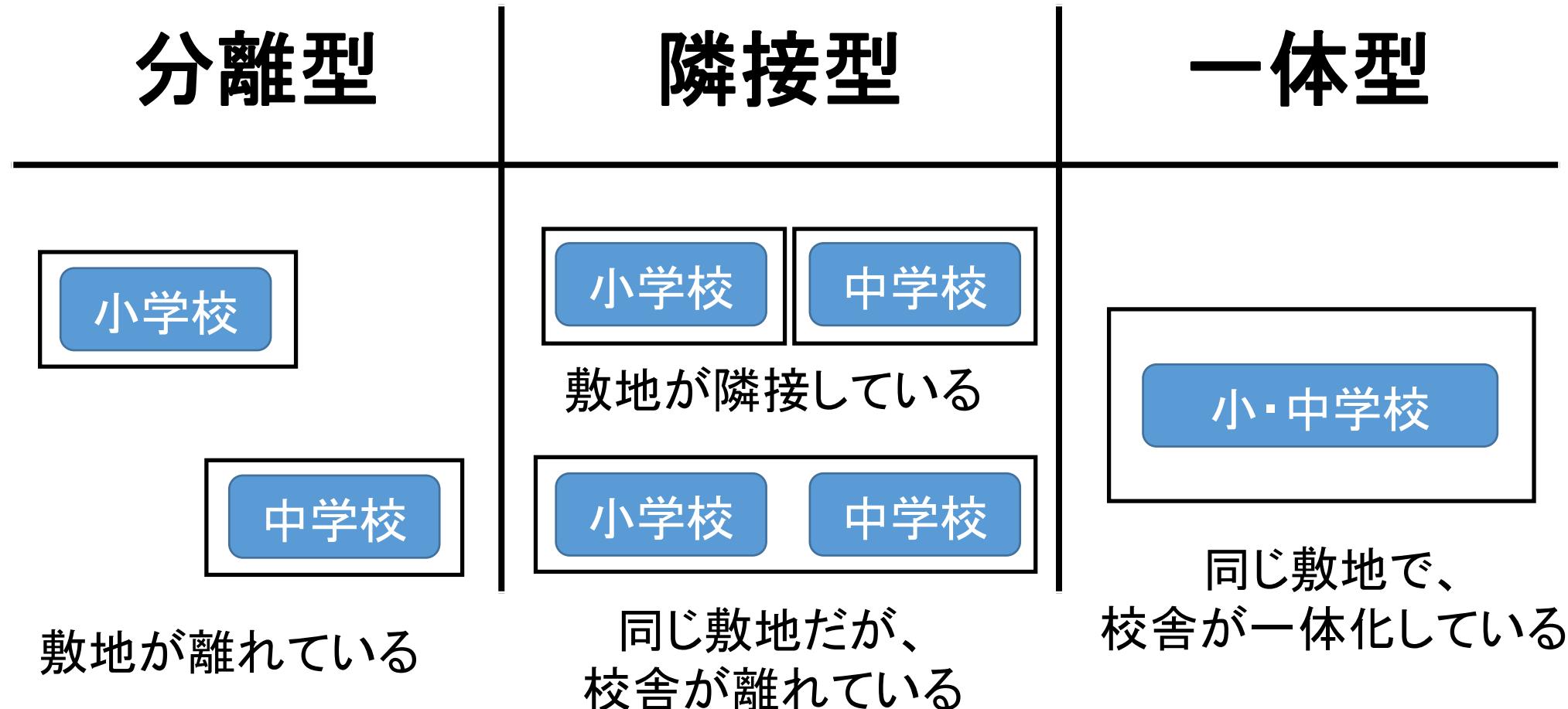
# 小中一貫教育の課題と対応

- ・児童生徒の人間関係の固定化(特に小規模校)  
→多様な形態での異学年交流の機会を増やす
- ・小学校高学年のリーダー性の育成  
→校舎やフロアの区分による成長段階の演出  
各行事の中で、高学年がリーダーシップを発揮する機会の設定
- ・中学校における生徒指導上の問題の小学生への影響  
→(全国の事例では聞かない)

# 小中一貫教育の課題と対応

- ・教室、グラウンド等、施設やスペースの確保及び使用時間調整  
→面積効率の高い計画、一方で単独では持てない施設の充実
- ・校舎間等の移動、活動にともなう児童生徒の安全確保  
→階段、設備のサイズの違い  
小学生が安全に活動できる、遊び・運動スペースの確保
- ・施設一体型の課題  
→登下校時間、授業時間の違いへの対応  
校地面積の確保(運動場、遊び場、屋外教育環境)  
余裕のある空間を生み出す工夫

# 施設一体型小中一貫校とは



# 上諏訪小・中学校(一昨年度の取組)

- ・小・中学校の教員が可能な教科で、相互に学校に入って授業を行っています。
- ・6年生が中学校で下記の時間割で授業を受けています。

【 6年1部 】

	月	火	水	木	金
1校時	*	算数	*	算数	*
2校時	算数	外国語	算数	外国語	算数
3校時					家庭
4校時					家庭

【 6年2部 】

	月	火	水	木	金
1校時	算数	*	算数	外国語	算数
2校時	外国語	算数	*	算数	*
3校時	家庭				
4校時	家庭				

## ☆6年生の授業

- 教科担任 中学校教員 算数、英語(ALT)、家庭  
◦小学校専科教員 理科、音楽、体育

## ☆5年生の授業

- 教科担任 中学校教員 家庭  
◦小学校専科教員 理科、音楽、体育

## \* 小学校教員による授業

- 小学校の教員の中学校への乗り入れ  
◦6年学級担任 国語(T-T)、数学(T-T)

## 上諏訪小・中 日課表(通常日課)

上諏訪小			上諏訪中		
校時	5時間	6時間	6年生の動き	校時	時間
朝の会	8:15～ 8:30			朝読書	8:10～ 8:25
朝の活動	8:30～ 8:45		8:40～ 中学校へ移動	学活	8:25～ 8:35
あゆみ	8:45～ 8:55		1校時 8:50～9:35	1校時	8:45～ 9:35
1校時	9:00～ 9:45		2校時 9:45～10:30	2校時	9:45～10:35
2校時	9:50～10:35				
業間休み	10:35～10:55		※小学校へ移動 3校時より小日課へ	休	10:35～10:50
3校時	11:00～11:45		月：6-2、金：6-1 家庭科	3校時	10:50～11:40
4校時	11:50～12:35		3・4校時 11:10～12:20	4校時	11:50～12:40
給食	12:35～13:35		※小学校へ移動 給食より小日課	給食	12:40～13:30
清掃	13:40～13:55				
5校時	14:05～14:50			《以下略》	
6校時	14:55～15:40				
帰りの会	14:55～15:40	15:45～16:00			
完全下校	15:20				
バス	15:40				
			<p><b>・6年生の移動</b>            行きは、担任、中核教員の引率、帰校は、中核教員の引率または、中学校の教担の見送りで、児童のみの場合も有り。</p>		

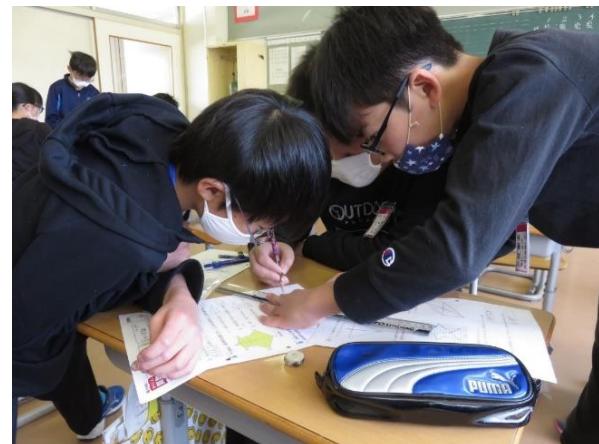


**上小から上中へ**



# 中学校の教室で学習する6年生の様子

## 算数(週5時間)



## 英語(週2時間)



## 家庭科(週2時間)



# 小中学生の交流活動の様子



挨拶王になる



中学生が読み聞かせ

小学生と一緒に生活  
している烏骨鶏と遊ぶ

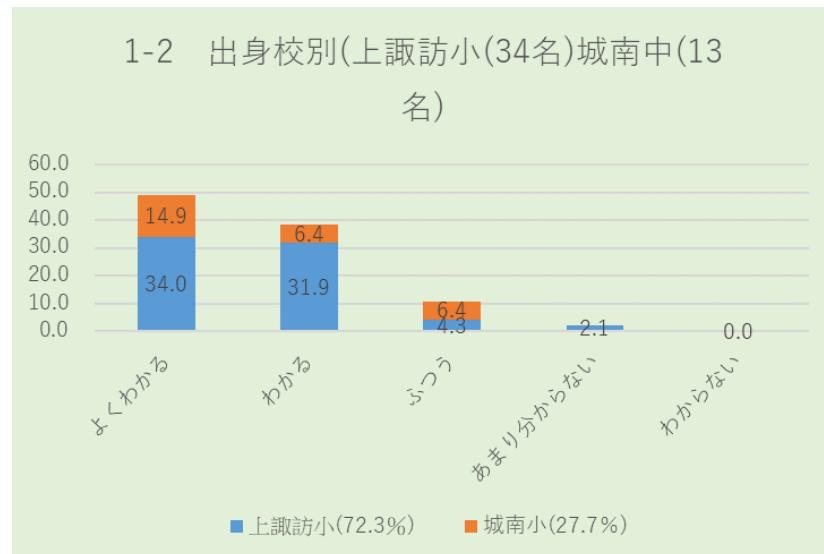
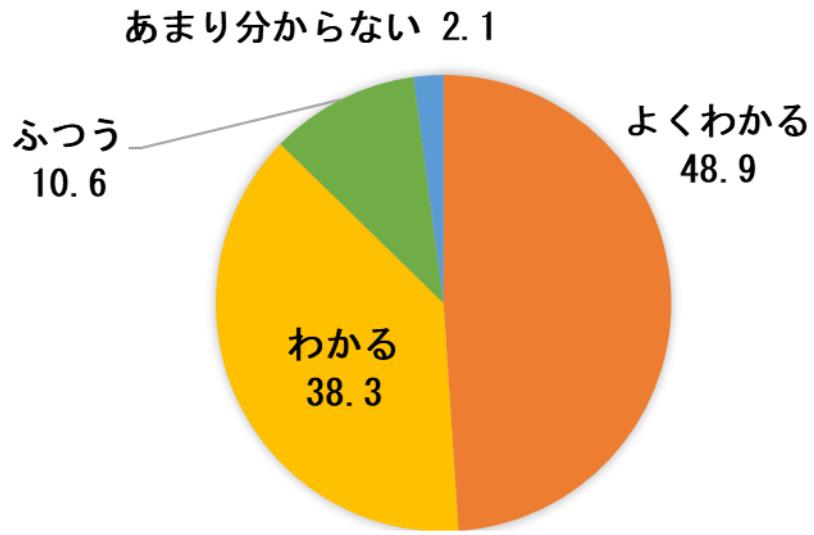


合同避難訓練



# 入学後の評価<学習>

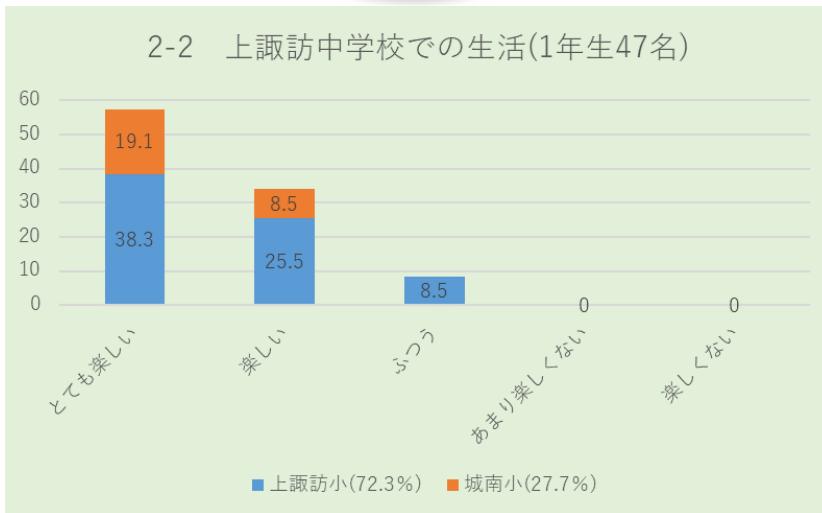
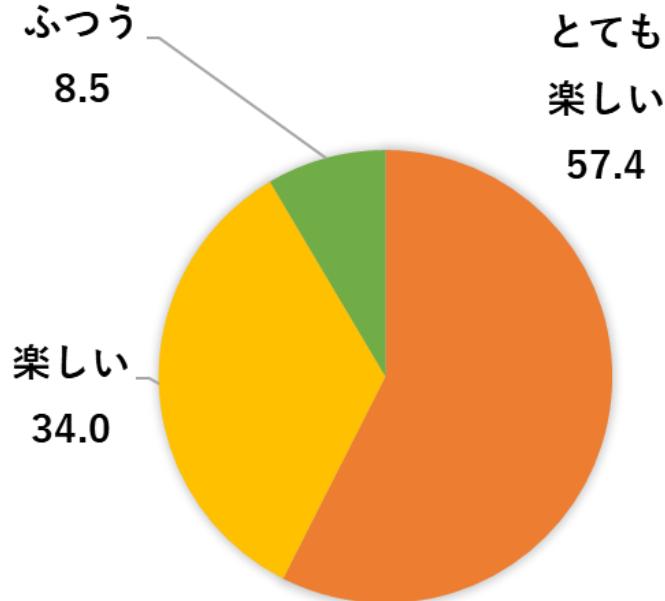
R4年5月 47名



- ・上諏訪小学校にいた時も、算数、英語、家庭科を上諏訪中学校で勉強していたし、教科担任の先生もあまり変わらなかったので、授業も受けやすいし分かり易いです。(上諏訪)
- ・私は、城南小学校で教科担任制でした。そのおかげで戸惑うことなく当たり前のようにやったので、行動がはやくなったり、落ち着いて授業をうけることができました。(城南)
- ・1人1人の先生が親しみやすく、内容がどんどん入ってくる。すぐ質問できるし、先生が話易い。先生全員が優しいから、緊張しないでも話せる。(上諏訪)
- ・各教科の先生は、1つ1つ大切なポイントを細かく教えてくれるので、分からぬ所は、ポイントをもう一回見直しすれば、問題が解けるので楽しくできています。(上諏訪)
- ・分かる時もあるし、分からぬ時があるから。教科担任制だから、くわしく教えてくれるから。(城南)

# 入学後の評価<生活>

R4年5月 47名



- ・クラスも変わり、城南小や他の学校から来た人もいるので、友達も増えとても楽しいです。(上諏訪)
- ・たくさんの人で話したり、小学校ではできないことなどができる。小学校では先輩などはいなかったから、中学校では上の人にへの気遣いができるようになった。(城南)
- ・仲の良い友達と違うクラスになっちゃったけど、新しい友達ができたし、新しい友達と一緒に勉強したり話したりするのは楽しくて好きなので、上中の生活はとても楽しいです。(上諏訪)
- ・友だちも少しできて、勉強も楽しくて、いい中学校生活がスタートできたという感じです。いろいろなことが新しいので、ワクワクしながら1日を過ごしています。(城南)

# 6年生の感想

R4年5月

- ・中学校での生活が、どんな感じかが分かって役に立つと思うし、授業も分かり易くて良いと思う。
- ・結構中学校に行っているけど、中学生は流石だなと思うことが多い。算数や外国語、家庭科がとてもやりたくなる授業だなと思えるようになれた。
- ・中学校の集中力はすごいと思う。避難訓練の時、すごく静かだった。
- ・中学校と小学校では、空気が違った。緊張感ある。
- ・中学校で勉強する時、避難訓練をやった時に、緊張させる空気、集中させる空気があったと思います。
- ・行く時も帰る時も、上諏訪中の生徒と結構挨拶をして、これが小中一貫なんだと思いました。
- ・少しきまりが厳しいけれど、それが中学校！という感じで楽しい、挨拶をしてくれる先輩がいて楽しい。
- ・中学生のすごさなどが学べて、少し憧れる。

# 6年生の保護者の授業参観での感想

R4年7月

・「ここは勉強するところだよ」と言う、良い意味での厳しい雰囲気の中で、黙々と問題に取り組んでおり、学力の向上という点で、大変効果的ではないかと感じました。また、中学に入ってから授業のやり方の変化について行けないという点での「中一ギャップ」解消という点でも、非常に意味があるのではないかと思います。一方で、このやり方について行けないという児童もいると思われ、そのあたりのフォローは必要かもしれません。「算数はこの方法だが、従来の小学校のやり方の科目もある」というバランスをとることも、子どもたちにとって大切だと感じます。〈算数〉

・ほぼ英会話だけでの授業で、参観している親の方が委縮してしまいましたが、子どもたちは楽しそうに授業を受けていて安心しました。聴くこと、話すことを中心に、外国語にも興味を持とうという雰囲気があり、補助の先生もいるので、子どもたちも安心して授業を受けられると思います。〈外国語〉

・リスニングが出来ないと、何を質問されているか分からまま授業が進んでしまうことが心配です。子どもたちの様子を見ながら適宜フォローして頂けるとありがたいです。〈外国語〉

・特別支援のクラスを見せていただきました。教頭先生がご案内してくださいり、特別支援のN先生とも我が子の不安な部分のお話をじっくり聞いてくださいり、とても安心しました。〈特別支援〉



# 教育委員の参観での感想

R4年7月

- ・ 6年生が靴をもって中学校へ行って、英語、算数、家庭科の授業を受けるという日常に、どんな工夫があるのか、興味がありました。実際に上諏訪小中の学校訪問をさせて頂いて、子どもも先生方も落ち着いた学校生活を送っている様子を目の当たりにして、敬意を表したいと思いました。
- ・ 授業の内容にも感激しました。事前の教材研究の上に立った、この1時間に何をどう身に付けさせるか、明確なねらいのもとでの授業。子ども達が良い表情で学習していました。
- ・「テンポの良い授業は子どもが飽きない」「授業は最大の生徒指導」
- ・ 小学生が中学校の校舎に行ったり来たりと、ある程度自由にできるというのが、本来の小中一貫の形に近い部分が具現化できている良い環境かな。自分達の先輩である、お兄さん、お姉さんの普段の姿、行動が見られること自体、本当に形に表れない、小中一貫の良さかもしれない。
- ・「小学校のカリキュラム」であっても、「あ、これが中学の授業なんだ。」っていうのを肌で感じながらやってく。そこで身につけたことによって、中学に上がっても、そのペースについていける。そういう意味では、中1ギャップのある部分っていうのはクリアできるのではないか。

# 教育のソフト面を推進しつつ、ハード面の整備を検討

**未来の諿訪を創る9年間の人間教育**

各中学校区で教育目標、めざす子どもの姿を共有し、学び・人・地域とのつながりを深める教育活動を小中が連携して進めます。

- 「伝え合う」場面が必ずあるように、小グループの学習を工夫します。 ●黒板の書き方等の形式を揃え、小中同じようなスタイルで授業をします。
- 中学校3年生になった子どもの姿を想い、小・中学校の先生が一緒に「学習内容」や「学び方」を考えます。

低学年 中学年 高学年 中1 中2 中3

小学校 中学校

**小学生は…**

○話を聞いてもらえるので嬉しいです。  
○自分らしさを、分からないと言いやすいです。  
○友達に説明することで自分の考えが決まりました。また、団結の精神の学習で意見を言った時にも友達に共感してもらってうれしかったです。

**中学生は…**

○グループで話し合いながら問題を解くときに、自分の考えを貢献する。また、考へつかないような反対の意見は、参考になるのでうれしいです。

**小・中学生共に、「相手に想いを寄せたものづくり」の学びを進めます。**

- 想いを言葉に―言葉が形に―形をモノに―「相手意識に立てるものづくり」の学習を中心に、ものづくりの楽しさ・探究心・企画力などを培う、国際版キャリア教育を進めます。
- 中学生一人ひとりが、地域のプロとの出会いで自分自身の将来を考えられるようにします。

**小・中一貫教育給食献立の日 小学生がメッセージを届ける**

「自分で作った味噌をみんなで一緒に味わってほしい!」  
「小学生の味噌振りすごい!お味噌汁美味しいかった!」  
「自分で(3年生)作った味噌を味わってみて、味噌をつくった気持ちいい!」  
「味噌の味がちゃんと味わえて嬉しい!」  
「味噌の味がちゃんと味わえて嬉しい!」

**小学生 6年生のメッセージ**

「今のアートがつくれました。中学校に行くと、テストをしている姿を見て、さすが中学生だと思いました。私はもう6年生の時に味噌を作りました。そして今日の給食で、「おはうの味噌汁」と「さばの味噌漬け」を出でもらいました。中学生のみなさんと先生方に味わって食べてもらいたいです。」

**ふるさと学習「すわっこ学習・諿訪学」** 一子どもたちの願いは、「諿訪のこと、もっともっと知りたい、そして知ってもらいたい。」 学級や一人ひとりが見つけた「ふるさと諿訪」を、地域に、世界に、発信します!

**かりん**

「自分もなじみがなかったけど、諿訪の味を別でもらいたいという願いを広めていきたい!」

**防災**

「心に残ったのは、えんどうがあても、きちんと大きいといふことです。だから、たくさんのお力を守られると切り、すごいことだと思いました。」

**【諿えんぼの見学会】**

「諿えんぼの見学会は、えんどうがあても、きちんと大きいといふことです。だから、たくさんのお力を守られると切り、すごいことだと思いました。」

**下駄箱開催**

「諿訪の魅力を伝えるために、どんな工夫が必要ですか?」

**児童生徒一人ひとりの学びの可能性を最大限に伸ばす工夫をします。**

- 「小中のつながり」を大切にした取組みを進めます。
- 教職員の専門性を活かすシステムや研修を充実させます。

**学習指導**

中学校の教科別に取り組む「小中のつながり」による課題研究会

**小中学生の交流**

小中学生の交流会、小中学生の会議会、小中学生の会議会、小中学生の会議会

**先生方の研修**

先生方の研修会、先生方の研修会、先生方の研修会

**学習指導**

小中学生の会議会、小中学生の会議会、小中学生の会議会

**教育委員会は、学校や地域のニーズを踏まえて、小中の学びのつながりを図る一貫教育の推進体制を整え、積極的に条件整備を支援します。**

- 人的、物的、財政的に、教育課程・学習指導等に関わる支援をします。
- 中学校区ごと、小中学校の「コミュニケーションスクール(CS)」の一体化を目指し、組織や運営と共に推進します。

**中学校区のCSは、地域の多くの人のつながりを広げます。**

家庭科・ミシンお助け隊、総合 キノコの達人、電子黒板を設置して、1人1台タブレットで

各校再編計画の推進、各教科の統整講・実践的活用の方針の実現、複数校等に必要な加配教員員の配置、市町別の教員研修会の企画、先進校(調査教育学校)の調査研修、小中の教職員が一緒に研修室で読み聞かせ

教育委員会事務局教育総務課に教育企画係を設置し、小中一貫教育に向けた企画、推進を図っています。

# 信濃町立 信濃小中学校



平成24年開校  
(5小学校・1中学校)

児童生徒数  
661人(H24)  
412人(R5)

# 佐久穂町立 佐久穂小・中学校



平成27年開校  
(4小学校・2中学校)

児童生徒数

1100人(H27)  
735人(R5)



小諸養護学校  
分室を併設

# 軽井沢風越学園（私立）



令和2年開校  
(新設)

児童生徒数  
園児63人  
小中学生  
228人(R4)

# 第5回 ゆめスクールプラン 南部地区推進委員会



令和6年5月14日  
諏訪市教育委員会